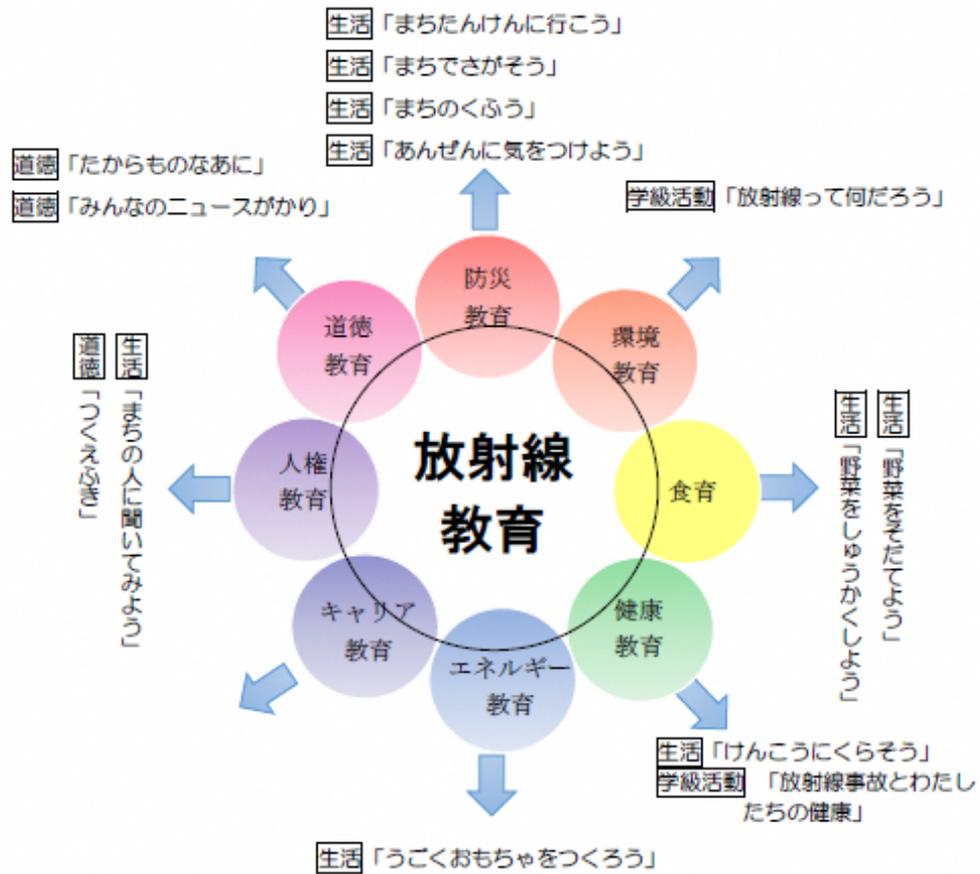
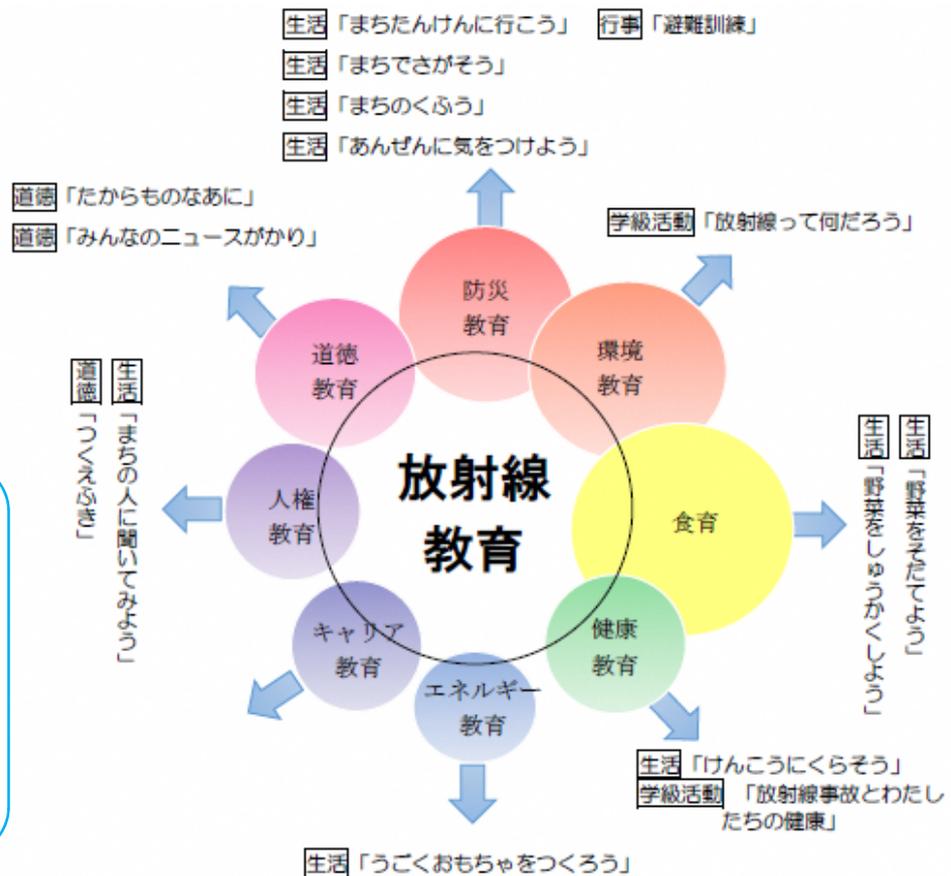


第2学年

<年度始め>



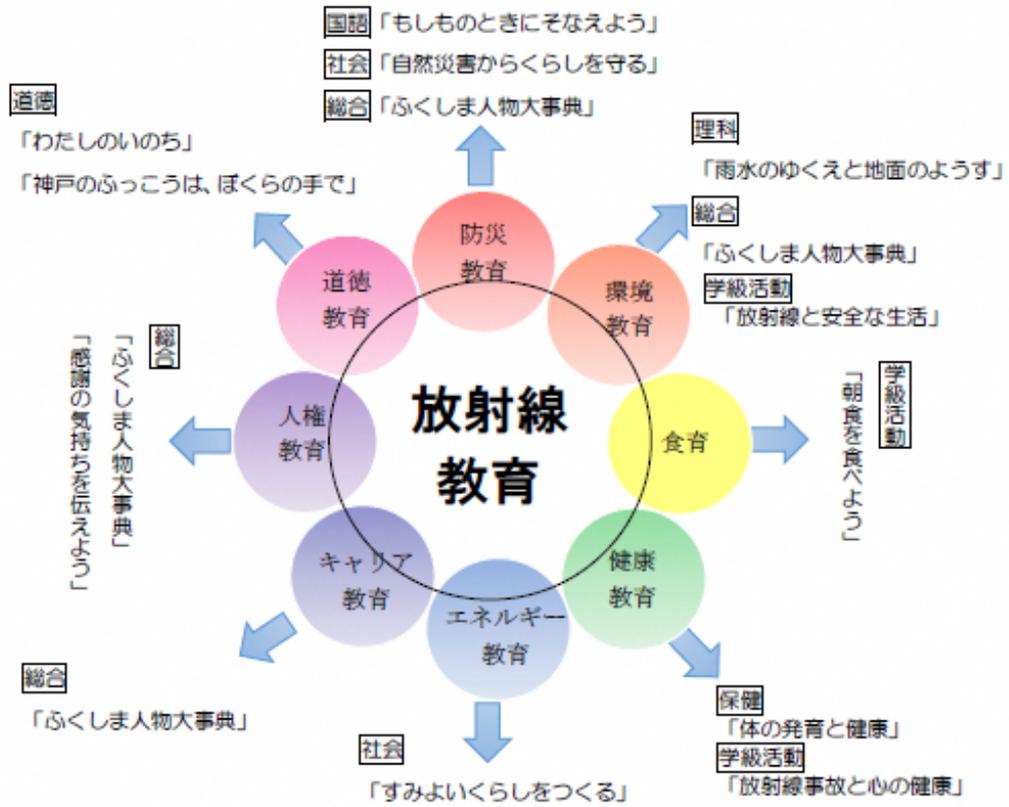
<年度終わり>



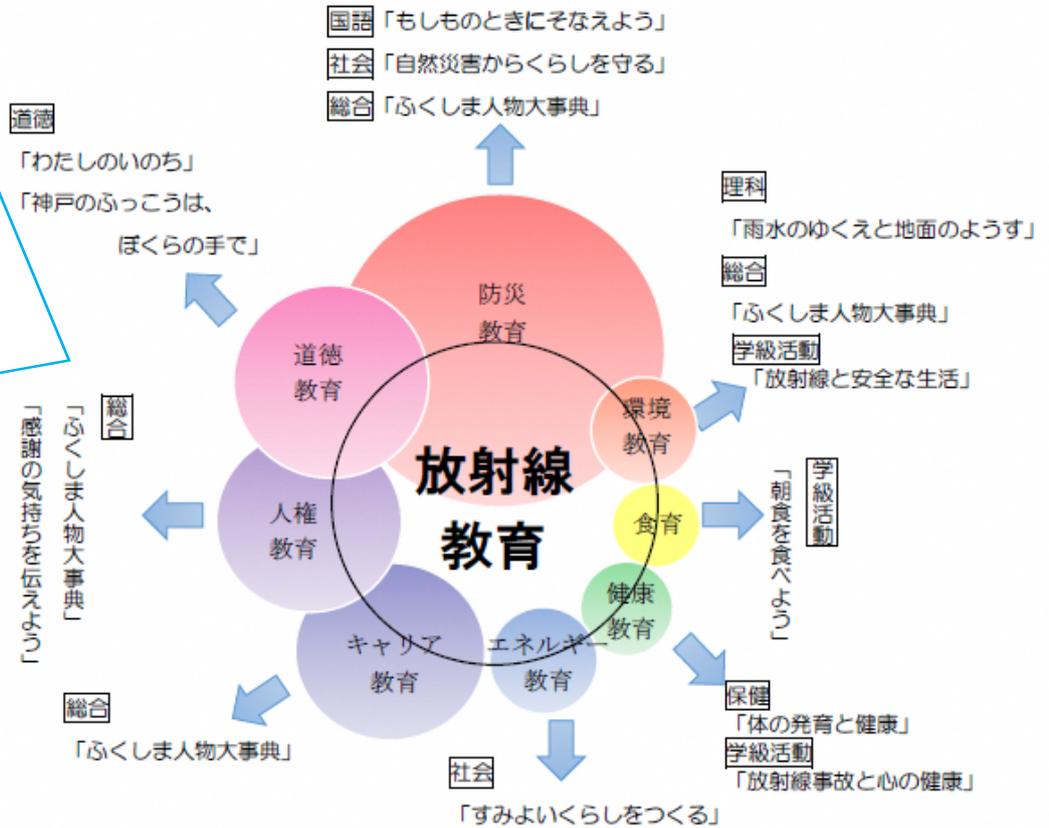
生活科を通して、食育との
関連を図り、食の安全や放
射線検査についての理解を
深めた。

第4学年

<年度始め>



<年度終わり>

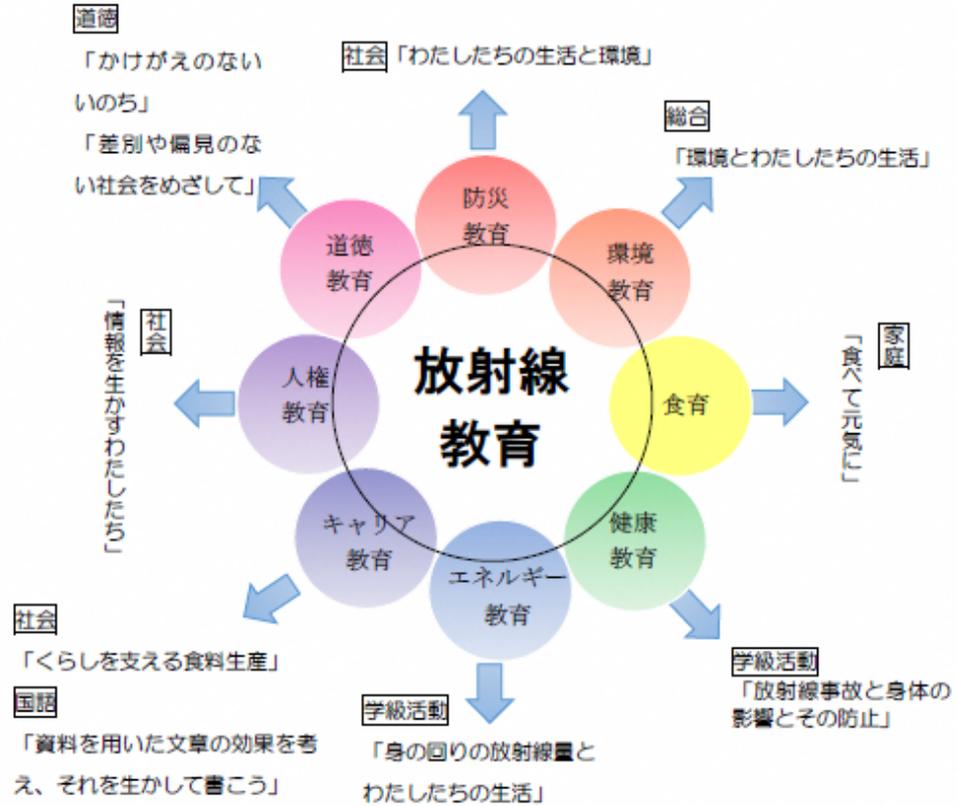


社会科、道徳科、総合的な学習の時間を通して、防災教育、道徳教育、人権教育、キャリア教育との関連性を高めることができた。

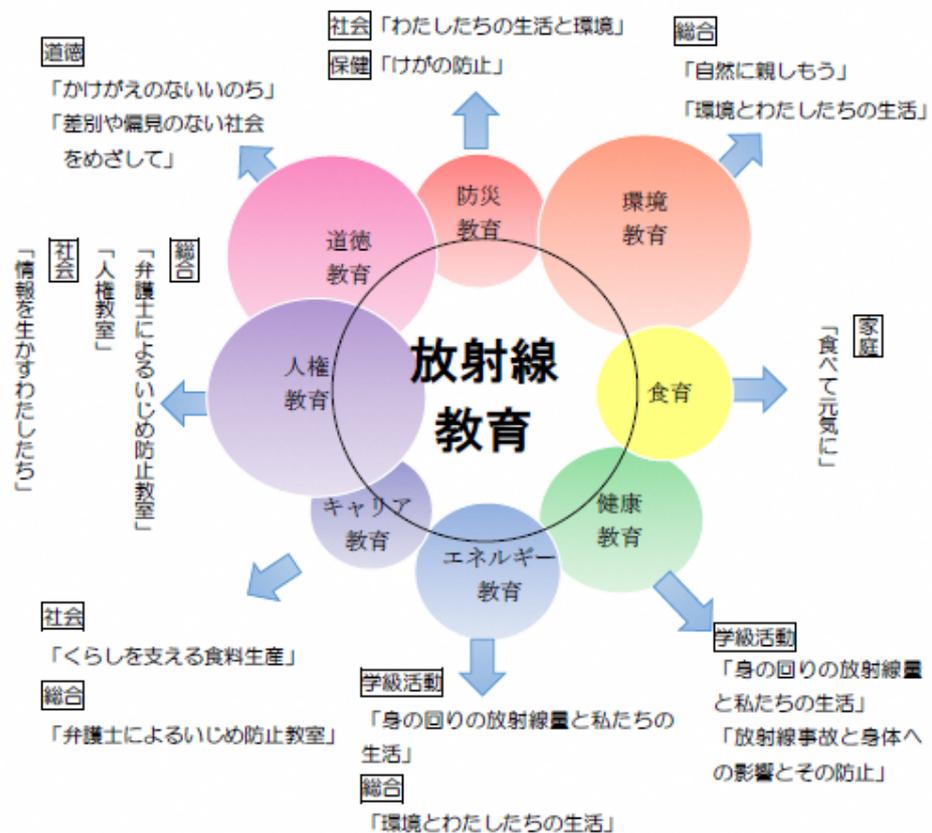
※本編 P7 参照

第5学年

<年度始め>



<年度終わり>

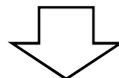
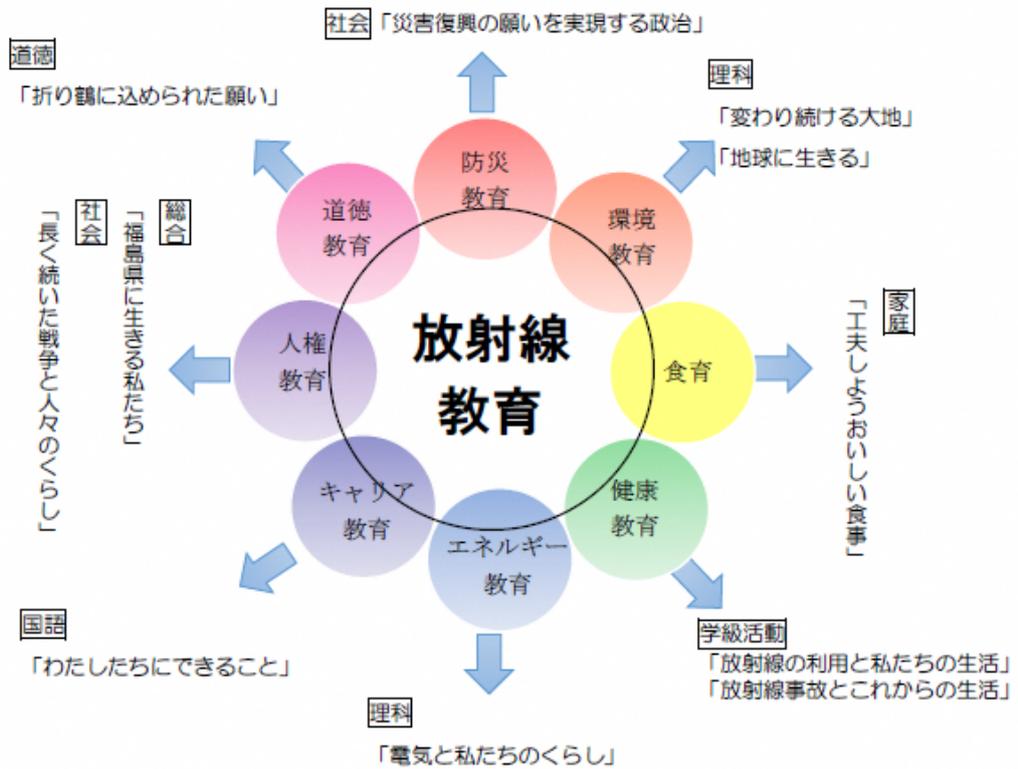


道徳科、総合的な学習の時間を通して、環境教育、道徳教育、人権教育との関連を図ることができた。

※本編 P5 参照

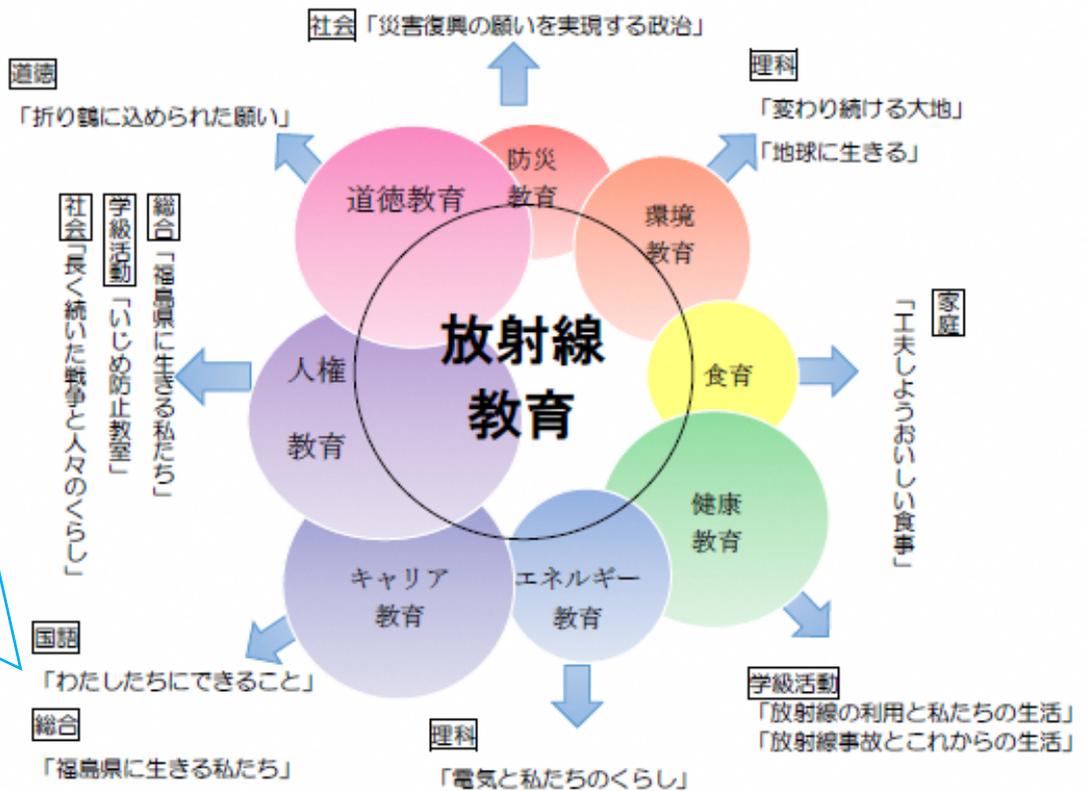
第6学年

<年度始め>



<年度終わり>

道徳科、総合的な学習の時間を通して、キャリア教育、人権教育との関連を図ることができた。



放射線教育年間指導計画

令和3年度 本宮市立白岩小学校第4学年 放射線教育年間指導計画【総時数60時間】（一部抜粋）

指導計画作成上、特に工夫・配慮した事項							
○昨年度の実践から得られた知識・技能を基に考え、適切に判断し、行動できる子どもを目指し、主体的・対話的に学ぶことができるように各教科等との関連を図った。 ○関係機関との連携、保護者の参加等に配慮し、学校行事との関連を図った。 ○いわゆる「○○教育」との関係性も踏まえることで、教科等横断的な指導を充実させられるように配慮した。							
月	4	5	6	7	8・9	10	
教科	国語						
	社会		☆1	工水はどこから (1/11) 工ごみしよりと利用 (1/11)		防自然災害から暮らしを守る (4/13)	☆2
	理科			環雨水のゆくえと地面のようす (1/5)			
	体育 保健			健体の発育と健康 (1/2)			
	道徳						
総合的な学習	キヤ・人ふくしま人物大事典 (40/45) → 1 福島の人々を調べよう 2 福島の今を支える人々を調べよう 人感謝の気持ちを伝えよう (3/25)						
学級活動		放射線と安全な生活 (1/1)	食朝食を調べよう (1/1)		放射線事故と心の健康 (1/1)		
児童会	児童会委員会	児童会委員会	児童会委員会	児童会委員会	児童会委員会	児童会委員会	
学校行事	始業式 入学式 1年生を迎える会 避難訓練 運動会				避難訓練 水泳記録会 終業式	始業式 鑑賞教室	交通安全教室

☆1 ○○教育との関連が分かるように示している。

例：エネルギー教育→工、防災教育→防

☆2 45分間の中で少しでも放射線に触れた場面があれば、時数にカウントする。

例：防自然災害から暮らしを守る (4/13)

→総時数13時間のうち、4時間分の授業で放射線に触れたことを示す。

実践事例

(1) なかよし学級（知的障がい） 自立活動「こんなときどうする？」

ソーシャルスキルトレーニングの中で風評被害について考える活動を取り入れ、児童自身がどのような行動をするとよいのかについて考えた授業。

T：（風評被害についてのワークシートを読み上げる）Aさんが、ある親子を見かけました。福島県産の桃を見て、「あれ食べてみたい。」と言っている子がいました。母親は「その桃は福島県産って書いてあるし、放射性物質が付いているかもしれないからダメだよ。」と言っていました。…このような時、Aさんはどうしたらいいのでしょうか。

（①～⑦までのAさんの言動から選択し、理由を書く時間をとる。）

C：（⑦「ぼくも福島のもを食べていて変わらないので、安心してください。」を選択）
福島でつくられた物は全部検査されていて、検査していいものが出荷されて、悪い物が入っていたら出荷されないから。

R元年度の自立活動を想起

T：ちょっと、先生と一緒に実際にやってみよう。

C：この桃は検査して出しているので心配いりません。だから、この桃はいい桃なので、食べても大丈夫です。

T：今、ワークシートの例と違うアレンジをしたよね。それでも、いいです。しかも、大事な言葉を言ってたよね。

C：検査。

T：福島県で売られている食べ物は、検査してあるの？

C：（うなずく。）

C：検査でだめだったものは出さないんだよ。



- 昨年度学習した食品検査についての知識を基に、ロールプレイでの言動について、根拠をもって選択することができた。

(2) ほほえみ学級（情緒障がい） 自立活動「こんなときどうする？」

コロナ感染症予防対策について考えたことから関連付け、どんな場合でも科学的な根拠に基づく情報を受け取り、その上で適切に判断し行動することについて互いに聞き合い、考えることをねらいとした授業。

T：青森県でこんなこともありました。（誹謗中傷の張り紙を見せる）

C：東京から帰省した人に嫌がらせの張り紙をした。

C：それはやりすぎ。

T：不安な気持ちは分かるけど、何でそこまでするのかな。

C : コロナにかかりたくないから、自分中心の行動をした。

T : どうしたら、差別とか嫌がらせがなくなるかな。

C : 思いやりのある行動をする。

C : かかった人は悪くないんだから、そんなことはしてはいけない。

T : 東日本大震災の時に、福島県のナンバーを見て同じようなことがあったんだって。

C : それはいじめだよ。いやがらせだ。

T : なんで、いじめやいやがらせをしたんだと思う？

C : 自分にうつることが怖いから。

T : うつらないのに、どうしてそう思うのでしょうか？

C : うつらないということを知らないから。

T : ちゃんと科学的な根拠のある知識や情報をもっていたらどうだったかな？

C : 嫌がらせやいじめのようなことはしないんじゃないかな。

T : みんなは、科学的な根拠のある情報をちゃんともっている。

でも、知らないことがあったらどうする？

C : きちんと調べる。

C : 調べてから行動する。

T : 科学的な根拠のあることを知り、適切に考えて行動できたらいいですね。これは、コロナウイルスに限ったことではないですね。



R 元年度の自立活動を
想起

- コロナ感染症者への差別から東日本大震災での差別を取り上げ、放射線について科学的な根拠のある知識をもっていれば、必要以上に怖がることのないことを確認する話合いとなった。さらに、「知らない」ということが差別につながることに結び付けることができた。

(3) 第2学年 生活科「野菜をそだてよう」

栽培経験を大切に、生長に関心をもち続けて世話や観察をし、想像したことと比較しながら科学的に思考することをねらいとした授業。(授業の終盤に放射線について触れた。)

夏野菜を育てた時のことを想起し、話し合う。

秋・冬に育てられる野菜について、本や図鑑を使って一人一人調べ活動を行う。

T : 育てて収穫できたらどうする？

C : みんなで食べたい！！

T : すぐに安全に食べられる？

T : どうしたら安全に食べられる？

C : 放射線検査！ 大内さん（本校の放射能測定員）に、お願いします。

R2 年度 1 学期
の生活科を想起



T：放射線検査をしてもらったら、安全に安心してみんなで食べられるね。

野菜パーティーができるといいね。

- 1学期に夏野菜を育て収穫した際に放射能測定員に放射線量を測定してもらったことや、毎日の給食は放射線検査が行われていることなど、学習してきたことを活用するやりとりとなった。安全と分かっているにもかかわらず、さらに数値として安全を確認することが意識された。収穫後のことを児童にたずねたときも、ほぼ全員から放射線検査というワードが出た。今までの学習が浸透している成果である。

(4) 第6学年 総合的な学習の時間「福島県に生きる私たち」

理科、社会科、総合的な学習の時間、修学旅行での学びを基に、福島県の復興や、伝統・文化などの良さ、そして自分達ができることについて考えることをねらいとした授業。

T：道徳などの学習で、風評被害について学んできましたが、なぜ風評被害は起こり、くならないのでしょうか。どうすれば解決できるのでしょうか。(ワークシートに書きこむ。)

C：放射線についての正しい知識を知らないからだ。

C：一部の噂を信じて、偏見をもっているからだ。

C：相手の立場に立って考える思いやりをもっとほしい。

C：正しい知識を知らせ、福島県の良さを知らせていけばいい。

R2年度の学級活動を
想起

T：修学旅行や今までの学習を通して学んできた福島県のよさについて考えていきましょう。

C：厳しい食品検査を行っていて、農産物が安全なこと。

C：赤べこなどの伝統工芸品・大内宿。

C：鶴ヶ城・白虎隊・会津の歴史。

C：猪苗代湖・安達太良山。

C：安全で美味しい桃・野菜・米。

R元年度の家庭科
を想起



T：福島県の良さを伝えるためにはどうしたらよいか、今日の学習をまとめていきましょう。

C：米や農産物の厳しい検査によって食品が安全で、美味しいこと。

C：美しい自然や観光地がたくさんあること。

C：会津の歴史や相馬野馬追などの伝統・文化があること。

C：会津塗や赤べこなどの優れた伝統工芸品があること。

- 道徳科、学級活動、総合的な学習の時間において学んだ風評被害や放射線についての知識等を各教科等においてつなぎ合わせることで、風評被害の問題点を明らかにした。その解決のために科学的根拠に基づいた知識を伝える大切さや福島県の魅力を発信する必要性について気付くことができた。